学報

No.72

愛知県立芸術大学

巻頭特集

学長就任記念座談会

1
白河 宗利
しらかわ のりより

愛知県立芸術大学 学長

東京藝術大学美術学部油画専攻卒業（平山郁夫賞、サロンドプランタン賞）、同大学院（油画技法材料研究室）修了。東京藝術大学非常勤講師等を経て本学に赴任。2024年より本学第12代学長に就任。専門分野は絵画・油画技法材料。

2
倉地 久
くらち ひさし

愛知県立芸術大学 副学長

本学美術学部絵画専攻油画卒業、同大学院美術研究科油画専攻修了。2017年本学芸術資料館長、2020年本学美術学部長兼研究科長。2022年より本学副学長に就任。専門分野は版画表現、現代版画。

3
安原 雅之
やすはら まさゆき

愛知県立芸術大学 副学長

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院音楽研究科（修士課程）音楽学専攻修了。2021年音楽学部長兼研究科長。2024年より本学副学長に就任。専門分野は音楽学（西洋音楽史）。

4
長井 千春
ながい ちはる

愛知県立芸術大学 美術学部長兼研究科長（美術学部 デザイン・工芸科 陶芸専攻 教授）

千葉大学工学部工業意匠学科卒業。国立芸術デザイン大学Burg Giebichenstein Halle（ドイツ）卒業。千葉大学大学院工学研究科意匠学専攻修了。博士（美術）。2022年より美術学部長兼研究科長。専門分野は陶磁器デザイン、近代陶磁器デザイン史。

5
成本 理香
なりもとりか

愛知県立芸術大学 音楽学部長兼研究科長（音楽学部 音楽科作曲専攻 作曲コース 教授）

本学音楽学部作曲専攻作曲コース卒業、同大学院音楽研究科（修士課程）作曲専攻修了、同博士後期課程作曲分野修了。博士（音楽）。2024年より音楽学部長兼研究科長。専門分野は作曲、現代音楽。

両学部長女性の就任は、変革を進める決意の象徴。

白河　新体制がスタートして一年を迎えます。私が学長に就任した際、社会情勢の変化に伴った変革が大学にも求められていることを伝えました。この一年、そのための組織づくりに取り組んできました。まず皆さんは何が大きく変わったと感じていますか。

安原　やはり両学部長に女性が就任したことに変化を感じています。これは愛知芸大が「変わろう」としていることを学内外に示すことでもあり、課題の一つである両学部の連携強化をさらに進めるための土壌が整ったように思います。

倉地　今ここにいるメンバーは、若い頃から積極的にコミュニケーションを取ってきた間柄にあります。だから、率直な意見交換ができ、阿吽の呼吸というものがあるような気がします。重要な案件がたくさんありますが、このメンバーなら前に進めていける、進めていかなければいけないと思っています。

長井　率直に話し合うことで、音楽学部と美術学部の距離がさらに近づいたという実感は私も持っています。両学部の連携強化は、さらに進めていかなければいけないテーマの一つです。同時に、学生の七割以上が女性の大学にあって、教員は男性が七割。この点も課題であると感じざるを得ません。

成本　私が学生の頃、作曲の教員といえば男性でした。私が教員に採用された際、私自身も驚きました。女子学生から「女性でも教員になれるんですね」と言われたことは今も覚えています。私が学部長に就任したことで、自分にもいろいろな可能性があることを感じてもらいたいと思っています。めざす仕事の一つとして、教員という選択肢があることを示すきっかけにしたいです。

長井　多様性が求められる社会の中で、女性も専門性を活かした仕事に一生携わることをめざす時代になっています。そうした社会を見据えた教育が今後は大切になるのではないでしょうか。

白河　芸術家や音楽家として活躍する女性が増えている中、教員は未だ男性が中心。意識的に変えるべきかは悩むところですが、ここに切り込んでいくことも必要だと私も感じています。同時に、キャリア支援のあり方も変えていくべきだと考えています。芸大は芸術家や音楽家を養成する教育機関であることはもちろんですが、将来の選択肢は多様にあることを示していくことも大切です。企業に就職することを肯定的にとらえたサポートも進めていきたいと考えています。

巻頭特集

Special Talk

教職員一人ひとりの思いを変革を進めるチカラへ。

2024年度、「芸術の力で社会や世界とつながる」をスローガンに掲げ、新学長に就任した白河宗利先生。
今回は、副学長、学部長を交え、そのビジョンに向けた組織づくり、大学変革への思いを語り合いました。

社会との接点を育みながら、芸術の新たな可能性を追求。

白河　現在、進めている課題の一つに愛知県立大学との連携があります。県大の川畑博昭学長とは定期的にランチミーティングを行い、意見交換を行っています。一法人二大学、それぞれの魅力を活かしながら、連携することで何ができるのか、さらに進化せていくためにはどうすべきか。二人に共通している思いは、連携を形だけのもので終わらせてはいけないということです。愛知芸大における魅力とは芸術の力で社会とつながっていくこと。そのためにも両学部が連携し、どのような活動を行っていくのかも重要になってくると思います。

長井　美術や音楽の力が社会に与える影響力からも、社会とつながっていくこと、連動していくことは重要だと私も考えています。

安原　今、アウトリーチという活動が注目されています。それは「音楽は社会を変える」という考えのもと、学校や病院などを訪問し、演奏活動を行う取り組みです。それを見ていると本当に社会を変えられると実感します。

成本　音楽は、その時間、その場所でなければ体験できないものです。だからこそ、人々の心に深く残るという魅力があります。

安原　そうなんです。美術と音楽が連動し、これからさらに発展していくための活動、学生たちが社会との接点を見出していくための環境を大学として用意しておくことも大切。だから足を運んでもらうのではなく、こちらから出かけていく。こうした取り組みも重要になっていると思います。

長井　演奏会や展覧会ではなく、両学部が連携したことで生まれる伝え方があるのではないか。そうしたことにも取り組んでいきたいです。

白河　そのためには、これまで取り組んできたことへの先入観を捨てることが大切ではないでしょうか。こういうものだから、これしかできない。そう思った瞬間にそこで終わってしまいます。今までの枠にとらわれず、何ができるのか、どのような伝え方があるのか、さまざまな意見を出し合い、実行に移したいと考えています。幸いなことに「愛知芸大と一緒に何かやりましょう」という他大学も増えています。それを受け止める体制づくりが急務です。

大学の未来を語るための変革。前向きな議論がその礎。

白河　今の話でもふれたように、みんなが意見を出し合える環境を整備したいと思い、これまで学部ごとに行われていた「将来計画委員会」を連動させる役割として私のもとに「将来計画会議」を設置しました。ここは、学部や専攻の視点ではなく、大学をいかに発展させていくかを議論する場ととらえています。そのために私は責任を明確にした体制、透明性を大切にした組織づくりに取り組んできました。皆さんはどのように感じているでしょうか。

長井　私自身は、情報の共有化が進んだように感じています。それによって教員一人ひとりが自分ごととしてとらえつつあるように思います。その自覚は教職員全員に生まれているに違いありません。

倉地　情報の共有化によって、全教員で議論できる体制づくりが進んだように思います。その一方で、今まで見えていなかった新たな課題も浮き彫りになりました。その課題とどう向き合っていくかも難題です。しかし、この体制のもとで、少しでも前に進めていかなければいけない。そう感じています。

成本　人それぞれ考え方の違いもあり、さまざまな意見があって当然です。それを集約しながらチームワークを活かして一歩ずつ乗り越えていく。それが大切になると思います。

長井　将来計画会議は夢を語れる場、未来について語り合える場にしたいです。

白河　変革は何のために進めるのか。それは学生のため、大学のため。そのスタンスは貫いていきたいと考えています。やはり前向きな議論をしたい。大学が内向きではなくなる変革であることが基本。そう思っています。

変革を加速させていくこと。それが現執行部の役割。

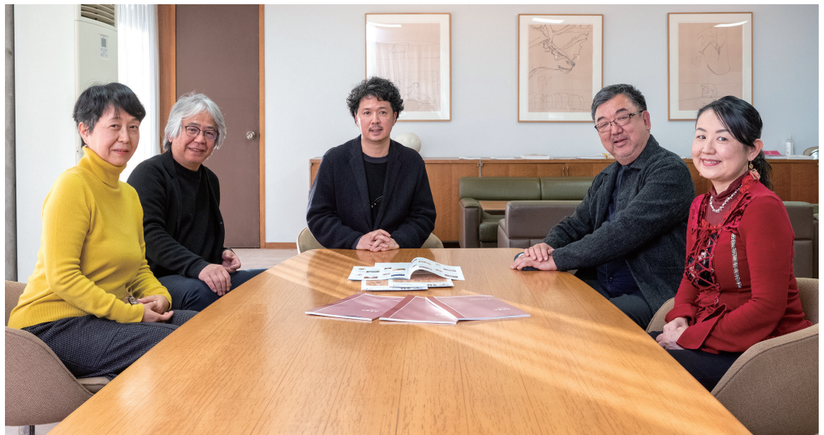
白河　新たな執行部が推進する明確なビジョンとして2025年からの「第四期中期計画（六年ごとに設定される達成目標）」があります。やはり愛知芸大の誇れることは、広大な森の中にキャンパスを構え、個人指導が全うできる教育研究環境です。これまでの第三期中期計画の骨子は、この芸術村的な良さを活かしつつ、外部とのつながりを育むことだったととらえています。それを引き継ぎながら、さらに推進させていくこと、発展させていくことが私たちの役割だと考えています。

倉地　私は中期計画の立案に長く携わってきました。第二期は大学が中心となり計画の発案に注力し、第三期で実際に計画を実行しました。ところがすべての計画を忠実に実行しようとしたため、壁に直面することもありました。だから第四期では整備と強化がテーマ。計画の中に優先順位、メリハリをつけていくことが重要になると思います。

白河　いわゆるスクラップ・アンド・ビルド。しかし、これが難しい。一度進めたことを見直すこと、そしてどう進めていくのか。効果あるものにするためにはどうしていくのか、どうアピールにつなげていくのか、それも大きな課題です。今までのことを変えるにはエネルギーが必要です。勇気も必要です。でもそこにやりがいがあれば、面白みもあると思っています。

安原　私はこれまで成し得なかった両学部が連携したカリキュラム改革を完結させることが今回の中期計画の柱だと感じています。

白河　カリキュラムは大学教育の根幹です。時代に即した、学生ニーズに即した方向へ変えていくには、時間も労力も必要であり、大学にとって大きな変革です。ここに新体制の真価が問われるのかもしれません。ただ、今回ここに挙がったテーマや課題は、五人の力だけでは無理です。教職員一人ひとりが前向きに議論を重ねていく意識改革が欠かせません。このメンバーが中心となり理解や賛同を得ながら、変革を停滞させることなく一歩でも前に進めていけるように取り組んでいきましょう。



01 愛知県立芸術大学管弦楽団第35回定期演奏会

2024年11月17日に愛知県芸術劇場コンサートホールにて、愛知県立芸術大学管弦楽団第35回定期演奏会が開催されました。本公演には、日本を代表する指揮者のお一人である秋山和慶先生を客員教授としてお迎えし、特別な一夜となりました。演奏会では、秋山先生からご提案頂いた隠れた名曲、プーランクの「牝鹿」組曲が披露され、エスプリに満ちた色彩感溢れる演奏が繰り広げられました。またリムスキー＝コルサコフの「スペイン奇想曲」は煌びやかで説得力のある演奏を披露。各楽器の華やかな大ソロも素晴らしく、会場を魅了しました。メインプログラムのベルリオーズ「幻想交響曲」では、秋山先生の緻密な音楽創りと的確なタクトのもと、学生達も良く応え、全ての曲が感動的で印象深いものとなりました。2025年度の定期演奏会は、11月22日（土）に大植英次先生の指揮で開催する予定です。今後も本学管弦楽団の演奏にご期待下さい！

橋本 岳人（音楽学部 音楽科 器楽専攻 管打楽器コース 准教授）

令和7年1月 秋山和慶先生がご逝去されました。生前のご厚誼を深謝するとともに、心より哀悼の意を表します。

02 油画・安藤正子先生　芸術選奨・文部科学大臣新人賞

2023年夏に一宮市三岸節子記念美術館にて開催した「安藤正子展 ゆくかは」を主な成果として、令和5年度(第74回)の芸術選奨美術A部門文部科学大臣新人賞を頂きました。画家である自分の仕事は、家族を描いたものが中心にあり、このような地道な取り組みを何処かで見ていて下さった方々の存在に、驚きと感謝の気持ちでおります。贈賞理由として頂いた文章の、「現在、世界の至る所で起きている多くの厄災に対して、氏は自らの生活圏内で日々の光陰を見つめ、存在の様相を深い感情で掬（すく）い上げ向き合おうとする。」という言葉は、信じ難いほど非人間的な世界中の戦禍ゆえに日々鬱々としてしまう私の心を、温かく励まし続けてくれています。これからも、自分の周りで仕事に生活にと支えて下さる沢山の方々への感謝を忘れず、自分の為すべきことにひとつひとつ取り組んでいこうと思っています。

安藤 正子（美術学部 美術科 油画専攻 准教授）

「ムービータイム」2021年
©Masako Ando Courtesy of Tomio Koyama Gallery
sticker by monyochita pomichi, limpendo
photo by Tamotsu Kido/anonymous collection蔵

03 アーティスト・イン・レジデンス2024

上：北條知子氏による成果発表展「recordari」　撮影:ToLoLo studio
下：アンドレアス 純 ヤンケ氏による公開レッスン

2024年度のアーティスト・イン・レジデンスでは、美術分野から1名、音楽分野から2名のアーティストを招聘しました。1人目は、学外公募により採択された北條知子氏（サウンドアーティスト、6月～7月）を招聘し、展覧会、ワークショップを開催しました。2人目はアンドレアス 純 ヤンケ氏（ヴァイオリン奏者、チューリッヒ芸術大学教授、10月）を招聘し、「第57回定期演奏会（第1夜）」への出演、学内演奏会、および公開レッスンを実施しました。3人目は、ファン・レイ氏（クラリネット奏者、中央音楽学院教授、11月）を招聘し、リサイタル、個人レッスンを実施しました。ワークショップや公開レッスン等のプログラムは、多様な文化や芸術に触れる機会となりました。教員や学生と交流を深めることにより、研究・教育の場としての成熟に繋がりました。

04 国立印刷局工芸官による特別講義「“凹版印刷”～印刷とビュラン彫り体験～」

2024年5月17日（金）、本学では国立印刷局の工芸官を招き、学生向けの特別講義を開催しました。銅版エングレーヴィング技法は、15世紀後半に西欧で開発されたもので、微細な彫金道具を使って銅版を直接彫る高度な技術です。紙幣の主要部分もこの技法で作られており、学生たちは工芸官の卓越した技術を学びながら、実際に制作を体験しました。日本の版画表現は、浮世絵に代表されるように、欧米とは異なる独自の歴史を持ち、細部にまでこだわる日本人の感性が反映されています。我が国の紙幣も、こうした背景に基づいた、金属凹版の整版や摺刷方法、厳選された紙の材質など、高度な技術の結集によって作られています。この特別講義には、本学の学生だけでなく、県大や学外の関係者も多く参加し、日本版画の技術の粋を堪能する貴重な機会となりました。

倉地 久（副学長、美術学部 美術科 油画専攻 教授）

05 こども愛知芸大

閉会式での大合奏の様子

2024年10月26日（土）に、名古屋中ロータリークラブ様の創立55周年記念事業として、「こども愛知芸大」を開催しました。小学校4年生から中学3年生までを対象に、本学教員による指導のもと芸術体験ができるプログラムで、当日は約150名のこどもたちが集まりました。オープニングでは、本学弦楽器コース教員・学生による演奏があり、その後、美術分野4コース、音楽分野5コースに分かれ、体験授業を実施しました。美術分野では、日本画の岩絵具を用いた体験、版画、漢字の成り立ちを考える講座、やきものに色を付け焼く体験などを各々楽しんでいただきました。音楽分野では、木の枝を用いたパーカッション、リコーダー、合唱、ピアノ、弦楽器指導のほか、解説付きの名曲ミニコンサートも開催しました。閉会式では、音楽分野参加者による大合奏が発表され、華やかに幕を閉じました。芸術を身近に感じられた、といった感想が多く寄せられ、多くの方に芸術に親しんでいただくことができました。

06 国立ソウル科学技術大学校との交流展

AICHI GEIDAI×SEOUL TECH CERAMIC ART & DESIGN EXCHANGE EXHIBITION CONNECT→DEEPEN

国立ソウル科学技術大学校との交流展AICHI GEIDAI×SEOUL TECH CERAMIC ART & DESIGN EXCHANGE EXHIBITION CONNECT→DEEPEN（2024/8/30～9/8）を愛知県立芸術大学芸術資料館にて開催しました。会期初日には、本学新講義棟にて相互の大学教育についての講演を行うと共に、本学内環境を視察してもらい、その後、本学学生（3、4年生19名）ならびに国立ソウル科学技術大学校3年生有志17名を主体とした合同講評会が行われ、他大学の教員から通常の授業とは異なる視座から知見を得ることが出来、有意義なものとなったと思います。講評会終了後も学生達は積極的に互いに交流を深め、これから制作を展開する上での良い刺激を得る機会となりました。そして今回、両大学教員間での次年度のMOA締結に向け、今後の方向性についても協議する事も出来ました。学生達にとって、今回の交流が国際的な視野を広げるきっかけとなる事を期待しています。

小枝 真人（美術学部 デザイン・工芸科 陶磁専攻 准教授）

エコプロ2024出展 共同研究・社会連携プロジェクト

「サステナブルの未来」をテーマにした産学連携プロジェクトの研究成果を、環境を主題とし「社会課題の解決」と「次世代育成支援」に取り組む国内最大級の展示会「エコプロ2024」に出展しました。ダンボールや古紙などのリサイクル素材を活用したオリジナルブースを設置し、生分解性素材を用いた「土に還る衣食住のデザイン」、8点を展示・提案しました。会期中には2,000名を超える来場者と意見交換を行い、業界関係者や一般の方々から商品化への期待を寄せられました。今後も、環境問題に対する新たな選択肢を提示し、デザイン思考を通じた楽しい体験の創出を目指してまいります。また、自治体や教育分野における環境施策への社会実装にも積極的に取り組み、持続可能な未来の実現に向けてさらなる活動を進めていきます。

春田 登紀雄（美術学部 デザイン・工芸科 デザイン専攻 准教授）

国際交流事業
エストニア芸術アカデミーとのアニメーション文化交流

エストニア芸術アカデミー（EKA）からルチア・ムルズヤク講師を招聘し、EKAアニメーション専攻と本学メディア映像専攻のあいだで国際交流事業を行いました。現代エストニア・アニメーションの上映会、ムルズヤク講師と本学教員（有持旭）による対談イベント、アニメーション・ワークショップを行いました。上映会では、EKAの学生及び教員による13作品によって、EKAのアニメーション教育の現状やその未来を考えるためのプログラムが組まれました。会場ではEKA教員2名と有持旭の寄稿文を含む全26頁の上映カタログが配布されました。ワークショップでは参加した専攻生10名のアニメーション作品にムルズヤク講師が音響を付けるコラボレーションも実現しました。次回は本学からEKAに教員を派遣できるよう対話を続け、継続的な国際交流の関係を築いていきたいと考えています。

有持 旭（美術学部 デザイン・工芸科 メディア映像専攻 教授）

名古屋大学COI-NEXTシンポジウムでのデモンストレーション

COI-NEXTはJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が実施する産学官連携プログラムです。共創の場支援プログラムとして、令和4年の地域共創分野本格型で東海国立大学機構名古屋大学が採択され、令和13年の社会実装を目指す「名古屋大学COI-NEXT 地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点」として進めています。今年度11月8日に本拠点が主催で、「なごのキャンパス」において「モビリティ・イノベーションがまちを変える～進化し続けるエキ・シロ地区～」を開催しました。研究課題4は現在進行している、円頓寺ー五條橋を中心とした、歴史観光XRインフォテインメントシステムのデモンストレーションを行いました。これはバックパックPCを背負い、ヘッドセットを装着して、街を歩きながら、300年前の城下の風景をXR鑑賞しながら、AI-Chatで音声でやり取りを行えます。シンポジウムではエキ・シロ地区で進められる先進的な試みの紹介や今後の展開などが話し合われました。デモンストレーションではみな多くの驚きと関心を集めました。

関口 敦仁（美術学部 デザイン・工芸科 メディア映像専攻 特任教授）

山本裕之個展「境界概念」

「音楽における曖昧性」を作曲上のライフワークとし、その実現手段のひとつとして、私はここ15年近く、4分音（半音の半分の音程）を用いた作品を多く書いています。2019年のCD『輪郭主義』に続いて、この狭い音程を中心に据えた作品ばかりを集め、2024年11月6日に杉並公会堂の小ホールで開催したのが、作曲作品個展『境界概念』です。4分音の音程を徹底的にぶつけていくと、音がゆがみ、震えます。その響きを聴いていると、いつしか私の中で、モノを分かつ「境界」に内在する反発や混交のエネルギーを観察しているかのように感じるようになりました。本公演はその様態を、映像作品を含む7作品で表現したものです。生楽器で4分音を正確に実現するのは演奏者に大変な技術と負担を要求するため、彼らとの協働は非常に重要でしたが、そのやり取りも作曲の醍醐味のひとつです。結果として会場を生楽器による美しい音の歪みで満たすことができたと感じています。

山本 裕之（音楽学部 音楽科 作曲専攻 作曲コース 教授）

ローム・ミュージック・ファンデーション ピアノ寄贈について

公益財団法人ローム・ミュージック・ファンデーションのご厚意によりスタインウェイ B-211 2台、及びベーゼンドルファー214VC.1 台を 2022年から2023年にかけてご寄贈賜りました。多大なるご支援に心より御礼申し上げます。演奏会など、限られた時間内のみ触れることを許される高品位な楽器を日々の教育現場で使用することが可能となり、学生達の音に対する探求心の向上が顕著に認められるようになりました。また、2023年、2024年に本学にて開催いたしましたオープンキャンパスにおけるワンポイント・レッスンや「こども愛知芸大」等の行事に 200名程の小学生から高校生までの方々が参加され、寄贈楽器を使用しての演奏、レッスンを受講されました。これらの楽器が本学にもたらす音楽教育上の効果は計り知れません。公益財団法人ローム・ミュージック・ファンデーションによる音楽教育ならびにピアノ演奏芸術に対する深いご理解とお力添えは、本学のみならず音楽界全体へ大きく貢献するものです。今後も寄贈いただいた楽器の価値を最大限に活かし、愛知県立芸術大学の教育、研究、および地域貢献活動における、より一層の発展を目指して参ります。

音楽学部音楽科ピアノコース教員一同

ブルックス 信雄 トーン准教授による、海外大学・機関との交流

株式会社MARUWA主催「軽井沢ミュージックステイ」にて

今年度、イタリア、ベルギー、中国、韓国等様々な海外アーティストを本学にお招きし、学生への指導やリサイタルを行いました。アメリカ・ジュリアード音楽院よりCharles Neidich氏をお呼びし、株式会社MARUWA様のプログラムで、学生に合宿型の指導を行っていただいたほか、芸術講座として学生へのマスタークラス・指導の様子などを一般公開しました。私自身は、アメリカのオバーリン音楽院、ハートフォード大学のハート音楽院、ベルギー・ブリュッセル王立音楽院では客員教授として招かれたほか、オランダ・フォンティス応用科学大学の音楽院、イタリアのリシーニオ・レフィチェ音楽院、韓国芸術総合学校において、演奏やマスタークラスなどを行い、現地のアーティスト、学生と交流することができました。今後もフランス、イタリア、ハンガリー、中国等各国の大学、音楽院でお招きいただき、演奏、指導などを行うほか、中国の音楽祭にも参加する予定です。

ブルックス 信雄 トーン（音楽学部 音楽科 器楽専攻 管打楽器コース 准教授、クラリネット奏者）

退任教員紹介 Retirement Professor

音楽学部 音楽科
声楽専攻
中巻 寛子
なかまき ひろこ

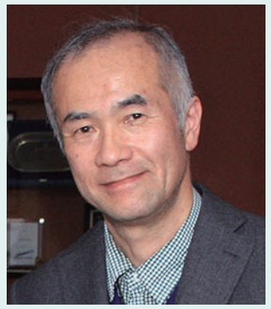
私が愛知芸大に着任したのは、2000年4月のことでした。入学式の日、奏楽堂で座る場所さえ分からずにいた私に、美術の先生のおひとりが「音楽の先生はあちらのようですよ」と教えて下さったことをいまも鮮明に覚えています。以来25年、多くの方々に支えられながら、幸せな教員生活を送ることができました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。
今後はかつての「演奏と研究の二足の草鞋」生活に戻り、ライフワークとなった「イタリア古典歌曲」研究の総まとめを行いたいと思っております。そして、大学のさらなる発展と学生さんたちの飛躍をいつも心から祈っています。皆様、どうかお元気で!

『イタリア歌曲集 1 [新版]』
(全音楽譜出版社)
編集:畑中良輔
対訳・逐語訳:戸口幸策
解説:中巻寛子

音楽学部 音楽科
器楽専攻 ピアノコース
北住 淳
きたずみ あつし

森というトポス

32年間(大学院入学から数えると38年間)の森暮らし。長久手のまなびやの森は、いろいろな音楽を作り出す存在の根拠であり、はじまりと発見の場所であり、気付きと注力、息抜きと脱力を与えてくれる場所でした。これからもそのようなトポスであり続けるでしょう。
山中で繰り広げたのはパトスとカオスに満ちたより意味不明な音楽だったようにも思われますが、ともかく散々ピアノを弾きまくったことだけは確かです。
日々を支え合い励まし合った同僚の皆さまには、感謝と御礼としかありません。
これからは、森を想いつつ、時の終わりも思っていたいです。
Memento Mori、とも言います。音楽とは、今を活き活きと生きることに他なりません。ありがとうございました。



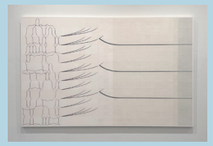
教養教育
水野 留規
みずの るき

平成11年に着任して以来25年間、イタリア語や西洋の文学・歴史に関係する科目を担当してきました。イタリア語に関しては、学生達が東京や京都の試験会場に行かなくてもイタリア語の国際的な資格取得に挑戦できるようにしました。イタリアのサレルノ大学とは大学間協定を結び、9年間にわたり毎年数名の選抜学生を現地に連れて行きました。イタリア文学の名作を芝居にして市民に紹介する試みも5〜6年やりました。
在職中にお世話になった方々に御礼申し上げます。大学が今後さらに発展していくことを切に願っております。

New Professor 新任教員紹介

美術学部 美術科
油画専攻
田中 藍衣
たなか あい

屋外廊下を行き来し緩やかに人と人が繋がる心地良いこの環境で、専攻間の垣根をあまり意識することなく、また、学年も関係なく周囲と関わることができた本校での学生時代が、自身の表現活動を今も変わらず支えていることを実感しています。教員として大学に戻った今、学生の皆さんとの対話を通して、絵を描く行為や表現活動の意義を深く省みることが何度もありました。ささやかな課題から大きなテーマに向き合う学生を、学生時代や現在の研究で得た経験を活かし、支えていけたらと思っております。



「Running Around」2022年
紙に岩絵具、ガラスビーズ

美術学部 美術科
彫刻専攻
葉栗 里
はぐり さと

私は十数年前に本学を修了し、瀬戸に小さなアトリエを借りて木彫での造形表現を続けてきました。そして今年度、新彫刻棟の開始と共に着任しましたが、変わらない森と新しい校舎、新旧入り混じる空気の中で毎日奔走しています。ここで出会った学生時代の友人は、お互いの活動が刺激や励みとなる特別な存在です。学生にはこのゆったりとした空間で伸び伸びと制作に打ち込み、仲間との人間関係や社会に羽ばたく土台を構築できるようになって欲しいと願っています。

「seahorses」2024年
楠、アクリル絵の具

美術学部 美術科
彫刻専攻
迎 英里子
むかい えりこ

私はこれまで、屠畜や石油の採掘、国債の仕組みや水蒸気の循環など、世の中に存在する不可視の現象=システムをモチーフとし、そのメカニズムを等身大の装置へ変換し、動作させることでシステムを実際に作動させるパフォーマンス作品を制作してきました。作品への一貫したテーマを持ちながらも、変化し続ける自分を取り巻く環境に柔軟に対応して自身の表現したいことにあった独自の形態や技法をそれぞれの学生が見つけられるよう、学生とともに探していきたいと思います。

「アプローチ 4.2」2024年
撮影者:松見拓也

美術学部
デザイン・工芸科
メディア映像専攻
八嶋 有司
やしま ゆうし

ある日、5歳の娘から、紙飛行機の作り方教えてあげよっか、と言われました。紙飛行機くらい、と思ったのですが、娘が折った紙飛行機は、きちんと折り切れていない、見た目がブワッとした柔らかい形のものでした。しかし、実際に飛ばしてみると、なんて飛ぶのでしょう。彼女が習った折り方が、自分が受けてきた教育や実践方法とは異なることを理解し、自分たちの世代よりも、新しい世代の方が優秀だということに思いが至りました。大学での教育においても、新しい世代の豊かな感性を尊重し、自分の古い知識で縛らないように、寄り添いながら共に考え、自らも学ぶ姿勢を忘れぬよう励みたいと考えます。

「この世界を風景の一Dive」2021年
6-channel Full HD video and Sound

音楽学部 音楽科
器楽専攻
弦楽器コース
西谷 牧人
にしや まきと

東京藝大と米国インディアナ大学で学び、11年間所属した東京交響楽団を始めとして多くの演奏の舞台に立ってきました。奈良出身で主に東京で活動してきた私にとって、この新たな地でのたくさんの出会いにとてもワクワクしています。若き芸術家の卵たちと過ごす時間は掛け替えのないもので、私自身も日々刺激を受けています。これまでの経験を伝えるだけでなく、共に考え、教育者として成長していきたいと思っています。

音楽は「世界を観察する手段」

GRADUATES' VOICE

在サンクトペテルブルク日本国総領事館専門調査員
さいとう もも
斎藤 ももさん
大学院 音楽研究科 博士前期課程 鍵盤楽器領域
2014年度修了

モスクワ音楽院大学院ピアノ科修了。2021年に日露青年交流センター〈若手研究者派遣事業〉日本人フェローとして再渡露し、同博士課程ロシア音楽史研究科に所属し研究活動を行う。2024年度前期本学非常勤講師（特殊研究27 作曲領域）を経て、同年11月より在サンクトペテルブルク日本国総領事館専門調査員。

地元愛知県で幼少の頃よりピアノを学び、「門下のお兄さん・お姉さんたち」が次々と愛知芸大に入学していくのを見て、自然な流れでその後に続きました。2008年のことでした。それからの数年間は、日々ソロと伴奏レッスンの準備に追われ、教員免許を取得し、学内オーディションの結果に一喜一憂し…という、ごく平凡なピアノ科生ライフを送りました。

人生の転機が訪れたのは大学院入学後。「県立2大学単位互換制度」の存在を知り、すぐお隣の愛知県立大学のロシア語履修生となったことがきっかけでした。新たな言語を習得することによって広がる世界に感動し、大学時代から心酔していたロシア音楽をより深く学ぶため、渡露の意思が固まりました。そうして計5年間にわたったモスクワ音楽院での留学生活が、演奏と研究の二刀流という新たな方向性を切り拓き、今の私の活動スタイルの基礎となっています。帰国後は母校（本学）の非常勤講師を経て、外務省在外公館専門調査員としてサンクトペテルブルクに赴任し、語学力及び専門性を活かしつつ、任地の経済や文化等に関する調査・研究を行っています。

音楽は、私たち人間の生活を彩る楽しみや安らぎであると同時に、「世界を観察する手段」でもあります。意外に思われるかもしれませんが、音楽に没頭し深く学ぶほどに視界は広がっていくのだということを、日々実感してきました。社会における一音楽家としての矜持を持ち、音と言葉を通して雄弁に語り続ける者でありたいと思っています。

さまざまな分野の研究者とのコラボレーション
（演奏会のプレトーク）

モスクワで開催された国際学会での発表の様子

ロシア留学中、専門のメトネルに関する評論で
国際賞を受賞

STUDENTS' VOICE

名古屋工業大学 スタートアップ助教
おおぬま まなみ
大沼 真奈美さん
大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻（デザイン）1年

修了制作
「愛知県産豆味噌を使用した食品開発」

スタートアップ助教として

私は地域資源のデザインについて研究しており、主に食分野において、学内外問わずプロダクト開発や企画運営などを行なっています。博士前期課程修了後は1年間拠点を移し、飛騨高山の観光地に身を置いて、地産品を扱う店を運営しておりました。

今年度より愛知へ戻って博士後期課程へ進学すると同時に、スタートアップ助教という名工大の女性研究者育成制度によって、学生兼教員という立場で研究を行なっています。自営業でも研究職でも変わらず地域資源を扱っていますが、他分野の先生方からのご指導や、大学の手厚いサポートによって、今までにないアウトプットが出来るのではないかと心躍らせています。

今後も研究を通して様々な成果物を発表する所存ですが、いずれは芸大生が大学院進学や研究職へ興味を持つきっかけの一つになれれば幸いです。

愛知県立芸術大学卒業、同大学院博士前期課程修了。在学時に始めた自営業で1年間活動したのち同大学院博士後期課程入学。同時に名古屋工業大学 助教に着任。

気軽に音楽で遊ぶ

入学してから、委嘱作編曲のお話や指揮の機会を多く頂き、目まぐるしく生活が変化しました。幸せであると感じる反面、「〆切まで時間がない→焦る→アイデアがでてこない→進まない→…」という負のスパイラルに悩まされることが増え、音楽を仕事とすることの難しさを実感し、音楽との向き合い方を改めるようになりました。

私の至った結論は「音楽は心の余裕からしか生まれてこない」ということでした。寝る、食べる、自然や景色を楽しむ、自分を"上手に"甘やかすことも大切だと考えるようになり、そのように余裕のある生活を心掛けています。

結果として音楽力は上がり、活躍の場が拡がり、好循環で物事が進むようになりました。これからも気軽に音楽で遊んで、よりよい音楽を創っていきます。

第30回TIAA全日本作曲家コンクール室内楽部門奨励賞、第32回朝日作曲賞受賞。
作品が東京佼成ウインドオーケストラや札幌交響楽団、ドイツやマレーシアなど国内外問わず取り上げられている。

STUDENTS' VOICE

まきの　けいご
牧野 圭吾さん
音楽学部 音楽科 作曲専攻 作曲コース 2年

マレーシア・クチンにて、音楽祭テーマ曲の委嘱作曲の初演指揮

クラシック音楽以外にも目を向けた自主公演

在学生・卒業生・修了生の昨年の主なニュース

【期間:令和6年1月～令和6年12月まで】

美術

専攻・コース	氏 名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
日本画	福島 七海	博前	2年	第3回公募展古川美術館Fアワード	大学生の部 大賞
	樋口 絢女	学部	4年	第3回公募展古川美術館Fアワード	大学生の部 入選
油画	近藤 隆弘	1995	卒業	第108回二科展	二科賞
	今村 政哉	学部	4年	第19回CBC翔け!二十歳の記憶展	中日新聞社賞
	仲川 莉乃	学部	4年	第19回CBC翔け!二十歳の記憶展	CBC賞
彫刻	新山 珠羽	2023	卒業	第29回来る福招き猫まつりin瀬戸 にっぽん招き猫100人展	日本招き猫大賞
	中原 可南子	学部	4年	第19回CBC翔け!二十歳の記憶展	愛知県教育委員会賞
デザイン	小木曽 理緒	博前	1年	JAGDA国際学生ポスターアワード2024	入選 3件
	石川 月珠	学部	3年	第107回手塚賞	準入選
	岩野 光樹	学部	3年	JIDA Student Selection 2024	金賞
	鈴村 晃平	学部	3年	JIDA Student Selection 2024	銀賞
	柴田 明澄	学部	2年	オレンジリボン 公式ポスターデザインコンテスト2024	公益財団法人SBI子ども希望財団賞
陶磁	出口 潮	2021	修了	第38回四日市萬古陶磁器コンペ2024	優秀賞
	宮下 陽	2023	修了	第71回日本伝統工芸展	入選
	チョウ ブンセイ	博後	3年	第13回国際陶磁器展美濃	入選
	上田 春陽	博前	1年	HACHI-8鉢展2024	入選
				第19回CBC翔け!二十歳の記憶展	グランプリ
	金 意陽	博前	1年	第13回国際陶磁器展美濃	入選
	佐藤 颯真	学部	3年	第79回福岡県美術展覧会	入選
	谷本 彩綺	学部	3年	がちゃがちゃデザインコンペ2023	審査員特別賞
メディア映像	鈴木 絢子	学部	3年	第12回八王子Short Film映画祭 学生部門	準グランプリ
				第7回フェローズフィルムフェスティバル学生部門	最優秀賞
	熊谷 萌花	学部	2年	大須インディペンデント・フィルム・フェスティバル	U22部門 優秀作品
			1年	第6回デジタルアニメーションフェスティバルNAGOYA2024	審査員特別賞

音楽

専攻・コース	氏 名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
作曲	柴田 誠太郎	2018	修了	ISCM World New Music Days2024	入選
	永安 大喜	学部	4年	トロンボーン・ピース・オブ・ザ・イヤー2024作曲賞	入選、ポピュラリティー賞
声楽	松本 直美		卒業	第2回「音楽本大賞」	大賞
	川越 未晴	2017	修了	第9回日光国際音楽祭声楽コンクール	第2位、日光市長賞
	長冨 将士	2020	修了	第4回平井康三郎声楽コンクール	第2位(第1位なし)
	寺島 大雄	2022	修了	第4回平井康三郎声楽コンクール	第3位
	小坂 千尋	2023	卒業	第33回日本ドイツ歌曲コンクール	聴衆者賞
	長江 希代子	博後	3年	一般社団法人たじみ音楽でまちづくり市民協議会選考委員会	2024年度音楽文化賞
	菅野 さやか	博前	1年	第2回プリマヴェーラ声楽コンコルソ	声楽専攻部門 23歳以下 第5位
	渡邉 練	学部	3年	2024年岐阜国際音楽祭	専門コース 声楽部門 大学生の部 第1位
鍵盤楽器	安達 莉子	博前	2年	第89回TIAA全日本クラシック音楽コンサート	優秀賞
			1年	第89回TIAA全日本クラシック音楽コンサート	音源審査合格
				第30回国際ピアノコンクールin知多	本選F部門 金賞
				第1回JPTA新人ピアノコンクール	入選
				第1回小西健二音楽堂ピアノコンクール	プロフェッショナル部門 最優秀賞、審査特別賞
	石田 明日香	博前	2年	第10回なごや青少年ピアノコンクール	大学生・大学院生部門 第3位、名古屋市教育委員会賞
	北川 温子	博前	1年	第11回東京国際ピアノコンクール	プロフェッショナルの部 第2位
ピアノ	開坂 望生	2023	卒業	ピティナピアノコンペティション全国大会	A1カテゴリーの部 第1位
	奥ノ坊 悠	学部	4年	第29回みえ音楽コンクール ピアノ部門	大学生以上一般の部 第1位、岡田文化財団賞
					アーティストコース 最優秀アーティスト賞
	武田 桜	学部	4年	第42回滋賀県ピアノコンクール	学生・一般部門 第1位、滋賀県議会議長賞

※卒業・終了年は年度で記載しています。学年は受賞時のものです。

専攻・コース	氏 名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
ピアノ	玉置 渚	学部	4年	Georges Bizet International Music Competition 2024 Season2	Advanced部門 Diamond Prize
	堀川 愛夏	学部	4年	第10回とやまクラシックピアノコンクール	大学・一般部門 金賞、シニア部門 グランプリ
	山田 百桃	学部	4年	第13回ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール	大学生の部 第3位
	阿部 ひかる	学部	3年	第33回日本クラシック音楽コンクール	ピアノ部門 大学女子の部 第5位
	渡邉 美音	学部	3年	第30回フッペル鳥栖ピアノコンクール 2024	フッペル部門(本選) 入選
	石原 なつみ	学部	2年	第25回大阪国際音楽コンクール	ピアノ部門 Age-U エスポアール賞
	桑山 拓士	学部	2年	第11回あおによし音楽コンクール奈良プロフェッショナルステージ	第2位、総務大臣賞、奈良市長賞
			1年	2023年岐阜国際音楽祭	専門コース ピアノ部門 大学生の部 第2位、審査員特別賞
	清水 健士朗	学部	2年	第57回カワイ音楽コンクール	ソロ部門Sコース 金賞
				第11回あおによし音楽コンクール奈良プロフェッショナルステージ	第1位、グランプリ、文部科学大臣賞、名古屋市長賞
	安田 絢光	学部	2年	第11回なごや青少年ピアノコンクール	大学・大学院生部門 第3位
			1年	第33回日本クラッシック音楽コンクール全国大会	ピアノ部門 大学女子の部 第5位
				SAKURA JAPAN MUSIC COPETITION 2024ピアノ部門 全国大会	第4位
	大谷 恵	学部	1年	全日本ピアノコンクール 2023全国大会	大学・院生の部 第4位
	梶田 彩衣	学部	1年	第14回豊田ピアノコンクール	自由曲部門 高校生以上 金賞
				第3回ショパンランドコンクール	高校～一般B部門 第2位
	本村 玲菜	学部	1年	第34回日本クラッシック音楽コンクール全国大会	ピアノ部門 大学女子の部 第4位
				第29回みえ音楽コンクール	ピアノ部門 大学生以上一般の部 第2位
弦楽器	稲田 悠佑	博前	2年	第3回 イブラ・グランド・アワード・ジャパン	弦楽器部門 第1位
	篠原 智香	博前	2年	2024年岐阜国際音楽祭	専門コース 弦楽器部門 一般Ⅰ 第1位
	黒岩 美音	学部	4年	2024年岐阜国際音楽祭	専門コース 弦楽器部門 大学生 第1位
			3年	2024年小澤征爾音楽塾	オーケストラオーディション 合格
	園部 真秀	学部	4年	第18回セシリア国際音楽コンクール	弦楽器部門大学生の部 第4位
管打楽器	佐藤 こずえ	2007	卒業	2024Season1 WORLD MELODIA CHAMPIONSHIP	Duo Performance部門 Platinum Prize、Great Teamwork Special Prize
	伊藤 萌	2010	卒業	2024Season1 WORLD MELODIA CHAMPIONSHIP	Duo Performance部門 Platinum Prize、Great Teamwork Special Prize
	村松 和奈	2021	卒業	第2回JOAオーボエコンクール	第2位
	狩野 将輝	博前	2年	MID動画コンテストシリーズvol.2 スネアドラムコンテスト	金賞、最優秀賞
				全日本打楽器連盟新人演奏会	出演
	西浦 千陽	博前	2年	2023年度平和堂財団芸術奨励賞	音楽部門受賞
	井上 慎介	学部	4年	第2回JOAオーボエコンクール	第3位、聴衆賞
				第33回宝塚ベガ音楽コンクール	木管部門 第3位
	難波 倫広	学部	4年	第47回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	金管楽器部門 大学生の部 第2位
	野々 笑莉	学部	4年	2024年岐阜国際音楽祭	専門コース 管楽器部門 大学生の部 第1位、優秀賞、岐阜知事賞
				2024 International Music Competition Salzburg "Grand Prize Virtuoso"	シニアの部 1st prize
			3年	第10回記念ナゴヤサクソフォンコンクール	U25若手演奏家部門 第2位
	近藤 大洋	学部	3年	日本演奏連盟オーケストラシリーズ	オーディション合格(名古屋)
	鈴木 桃花	学部	3年	日本演奏連盟オーケストラシリーズ	オーディション合格(仙台)
	前田 菜穂子	学部	3年	第2回JOAオーボエコンクール	入選
	大森 すず	学部	3年	第10回Kサクソフォンコンクール	大学・一般の部 第1位
	平野 ほの花	学部	2年	第10回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門 一般の部 優秀賞、審査員特別賞
			1年	第9回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門 一般の部 奨励賞
				第17回静岡県フルートコンクール	一般A部門 第1位、グランプリ
	三原 奏音	学部	2年	第35回日本木管コンクール	フルート部門 第1位、コスモス賞
				第27回びわ湖国際フルートコンクール	一般部門 入選
			1年	第9回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門 一般の部 奨励賞、聴衆賞
	宮本 花	学部	2年	第13回ヤング・クラリネッティストコンクール	ヤングアーティスト部門 第1位
	四元 奏良	学部	1年	第10回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門 一般の部 奨励賞
	酒井 靖河	学部	1年	第16回日本トロンボーン学生音楽コンクール	大学生の部 独奏部門 第1位
				第8回名古屋トロンボーンコンペティション	一般ソロ部門 第1位

学報 No.72
発行日／令和7年3月31日　発行／愛知県立芸術大学
愛知県長久手市岩作三ケ峯1-114
TEL 0561-76-2851 FAX 0561-62-0083 https://www.aichi-fam-u.ac.jp/

愛芸アシスト基金 寄附制度について

みなさまからの寄附が愛知芸大を支えます。
愛芸アシスト基金の目的は、愛知県立芸術大学が地域における芸術文化創造活動の拠点として多くの方々に親しまれ、理解を深めていただくとともに、学生や教員の意欲的で創意あふれる活動を推進することです。皆様方に支援の一翼を担っていただければ幸いです。

寄附金はさまざまな事業に活用させていただきます。

- 本学主催の演奏会、展覧会への支援
- 本学の実施する地域文化の振興、国際交流、学生支援事業等に関する支援

［個人］1口 1万円［法人］1口 10万円
※何口でもお申込みいただけます。※税制の優遇措置が受けられます。

寄附者特典

寄附金をいただいた方には、下記の特典がございます。
・大学発行の情報誌（学報等）をお届けします。
・大学主催の演奏会・展覧会にご招待いたします。
※ご招待公演、参加人数は当方より指定させていただきます。

お申し込み方法

・金融機関窓口からの振込
・クレジットカード決済

ウェブページからお申し込みください。▶
https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/summary/14.html

愛芸アシスト基金への寄附者一覧

※一定額以上ご寄附頂いた方のご芳名を掲載しました。（五十音順 2025年3月末日現在）

［法人］
NPO法人イエロー・エンジェル 様
岡谷鋼機株式会社 様
株式会社スズケン 様
株式会社槌屋 様
太平洋工業株式会社 様
武田機工株式会社 様
中部日本放送株式会社 様
東邦ガス株式会社 様
豊田信用金庫 様
愛知県立芸術大学音楽学部同窓会 様
愛知県立芸術大学美術学部同窓会 様

［個人］
荒居秀雄様
伊藤寿美子様
岩佐泰樹様
宇野恭子様
太田美香様
小林章嗣様
澤田昌典様
清水哲太様
末吉利行様
出村祥雄様
戸山俊樹様
廣田誠克様
福島佐千男様
細川淳様
松村公嗣様

愛芸アシスト基金

表紙作品「モンキチョウ」
安藤 正子
美術学部 美術科 油画専攻 准教授

2023
©Masako Ando Courtesy of Tomio Koyama Gallery
photo by Tamotsu Kido
作家蔵

愛知県立芸術大学